



# 京都 YWCA

# 9 2013

YWCAは、キリスト教を基盤に、世界中の女性が言語や文化の壁を越えて力を合わせ、女性の社会参画を進め、人権や健康や環境が守られる平和な世界を実現する国際NGOです。

## 韓国スウォンの若者と 日本の若者が交流しました。

7月26日から29日までの4日間、韓国のスウォン（水原）から中高生を中心とした11名が来京、京都からの参加者12名とともに熱くて楽しい時間をすごしました。

スウォン YWCA との交流は、4年前に京都 YWCA がスウォンを訪問したことから始まりました。その後相互訪問し、持続的な相互交流を約束しましたが、東日本大震災で延期され、ようやく今年念願の第一歩を踏み出しました。

### 共通の課題を共に考え、市民レベルの平和構築をめざす

今回のテーマはいまや両国共通の問題である「原発」。しかし、それ以前に言葉、歴史認識など超えるべき心配事を抱えてスタートしました。グループ行動、料理作りなどの協働作業を工夫した結果、参加者は「YWCA 語」とでもいうようなコミュニケーションを確立、最後は涙の別れとなりました。

このプログラムは、同世代のメンバーが友人となり、ともに市民レベルの平和を構築することを目標とします。参加者からは、開始以前は「本当に交流できるか不安」「日韓関係が影響するのではないか」「言葉が通じないからどうしよう」という不安があったようですが、最後には「参加して良かった」「言葉が通じないのに夜遅くまで話せるなんて想像もしていなかった」「言葉が通じなくてももう怖くない」など多くの感想をいただきました。（吉村千恵）



アイスブレイキングの一コマ。自然と笑いに包まれました。

### 参加者の荒木美沙紀さんの感想

私は、普段から韓国の方や、韓国のアイドル、歌、食べ物、文化いろいろなことに興味があったので、今回の交流会に参加しました。韓国の友達を作り、習っている韓国語を話せる良い機会だと思いました。私は今回のテーマである原発の話聞いて、知らない言葉がたくさんあり、初めて知るようなことも多く、質問など意見を言う余裕はありませんでしたが、勉強不足で参加をした私が感じたことは、節電のお話でした。震災から2年と少しが経った今、節電という気持ちを忘れていたところがありました。ですが、今回の交流で原発をテーマに、また節電を考えることができ、私生活を改めて見直すきっかけになりました。

私には韓国の友達がありますが、その友達との交流と、今回4日間、寝食を共にし、一緒に勉強をする交流は全く違いました。日本と韓国は、歴史的・政治的なことから解決が困難な問題がたくさんあると思います。ですが、韓国が好きで、韓国の方と交流を持ちたいと思っていた私には凄く良い経験になり、とても嬉しかったです。お互いの国のことを良く思っていない人が多いと思いますが、そんな中、このような日韓交流が実現し、ひとつのテーマでお互いそれぞれの国でできることを考え、話合せて、たったの4日間がすごく濃い4日間感じました。

相手の国の言葉が使えなくても英語で会話をしたり、翻訳機を使ったり、お互いなんとかしてコミュニケーションを取ろうとする行動や、自分が習っている韓国語をたくさん使えたこと、そして会話ができたことに感動しました。

## ・京都YWCA90年の歩み・

### 新会館の建設（1966年～1970年）

「日赤の看護婦寮とタイアップして会館を建てるという話があるがどんなものだろう」。1966年度は会長のこの言葉で幕が開けた。改修を要望する声は1950年代から上がっており、40周年を迎えた1963年からは改修積立が行われていた。また、1885年にロンドンで誕生したYWCAも、当初は看護婦寮だったこともあり、この提案は好意的に受け止められ、臨時総会で承認された。その後、募金委員会は、会債発行や寄付の呼びかけに奔走した。当時の委員長は、自家用車に箱を置き、同乗者に募金をお願いするといった力の入れようであった。このような会員の力が結実し、1967年4月、新会館が完成した。

### 憲法を生活の中に（1971年～1975年）

1969年に設置された教養大学の活動が根付き、憲法、平和問題、年金、婦人の地位、家庭と職業等に関する研究会が頻りに開催された。1972年には、ボランティアスクールを開設。ボランティア活動とは、決して福祉政策の欠陥を補う慈善的なものではなく、日常生活に潜む問題に目をむけ、一人ひとりの権利が守られる世界を創り出すという意義があることが伝えられた。（編集部）



新会館着工（くわ入式）

## 多文化理解プログラム

### 「タイの人たちの生活とタイの歴史を知る」

国際委員会では今年度の多文化理解プログラムとして、全3回の「タイを知る」シリーズを企画しました。7月13日の第1回は、バンコク出身で日本に長く暮らしておられるブラー ポンキワラシンさん（ポップさん）にお話しいただき、19名の参加者がありました。



お話すのポップさん

タイ国民の95%が仏教徒であり、男性は20～25歳に出家する習慣があります。ただし未婚が条件です。自分の母親が天国に行けることが出家の目的です。ポップさんも大学の冬休みを利用して帰国、出家し、髪や眉を剃ってお寺に入り厳しい修行生活をしました。

タイでの女性の地位についてですが、最も尊敬しなければならない人のベスト3は、①母親 ②父親 ③先生の順です。母の日には母親にジャスミンの花束を贈りますが、父の日には特に何もありません。また、CEOに女性が占める割合は49%で世界一高く、これらのことが女性の地位を示しています。しかし女性への犯罪が少ないというわけではありません。（3位は先生：学校の職員室に入るときには膝立ちをし、そのまま歩かなければなりません。参加者はみな驚きの声！）

タクシン派（赤シャツ派）と反タクシン派（黄シャツ派）の対立の構図についてもポップさんの目から見た分かりやすい解説がありました。

そのほかタイの歴史、国王のこと、タイ文字、簡単なタイ語等々、母国について率直にお話いただきました。（小寺敬子）

## 講演会 『パレスチナ問題とキリスト教』

7月21日、平和委員会ブクラは、村山盛忠先生（日本基督教団大阪生野教会協力牧師）を招き、昨年11月に出版された『パレスチナ問題とキリスト教』をテーマに講演をしていただきました。35度を超える暑さにも拘らず予想を超える参加者がありました。

先生とパレスチナのつながりは1975年、スイスでのWCC（世界教会協議会）主催のキリスト教とパレスチナ問題の協議会に参加された時、アラブから参加されたりアーハ・アブ・アサル牧師の発言から始まります。

その発言とは、「ユダヤ人に対する贖罪のために毎年聖地イスラエルに行きユダヤ人との対話を求めるべきだ」と進言するオランダ代表に対し、「我々パレスチナに住むアラブ・キリスト者は、この地でユダヤ人を迫害したことはない。ユダヤ人を迫害したのはヨーロッパのキリスト教世界である。にも拘らず現在その肩代わりをしているのは我々アラブ人だ。同じキリスト教徒でありながら何故アラブのキリスト教徒との対話を求めて来ないのか」というものでした。このエピソードは先生のパレスチナとの連帯の決意につながります。

ユダヤ人問題とは西欧世界における近代国家成立の過程で同化しないユダヤ人の排除を意味し、日本における朝鮮人、アイヌ、琉球の存在の排除と根幹を同じくしているとのご指摘は印象に残りました。

時間に制約があり先生の著書の導入部分で終ることになりました。より深くパレスチナ問題を学ぶために先生の講演を次につなげて行きたいと願います。（円城順子）



村山盛忠先生

## 京都YWCA こどもまつり2013開催。福島からの子どもたちも参加！

8月3日に恒例の京都YWCA子どもまつりを開催しました。にぎやかに「3匹のヤギのガラガラドン」でオープニング。その後参加者は各コーナーをめぐる。ホールでは「たいこセッション」、色々な種類の打楽器、外国のたいこなどをたたいて遊ぶコーナー。最初は各自勝手に楽器をたたいていてもインストラクターの指導で、最後は全員での「たいこセッション」で終わり、「やったー」という達成感。

キッチンでは、大量の玉ねぎの皮（煮出して染め液を作る）と布を使って、エコ染めを楽しみました。簡単な染色作業ですが、仕上がりは予想以上に美しく、初体験の親子は「ぜひ家でもやってみます！」とうれしい感想がありました。

そのほか「ちょこっと指圧コーナー」、牛乳パックを再利用して「ヨーヨー作り」、こわーい、楽しい「お化けの話」コーナー。なかなか炭に火が点かず、あぶら汗と冷や汗をかきながら焼いた「竹パン」作り、やっとなパンを口にしたら子どもたちの笑顔、笑顔。待つことを学習してくれたかなあ。

最後は、ホールにもう一度全員集まり、「パペットシアター・らせんくらぶ」による人形劇「ラーくんとげきごっこ」と大型仕掛け紙芝居「おむすびころりん」を楽しみました。

福島からYWCAの保養プログラムに来ている子どもたちも参加しました。（坪野えり子）



箱の中を覗いたら、日本一小さな紙芝居が上演中

### シリーズ『理不尽な世界であきらめずに楽しく生きる』②

## 仙台で必要なことは？

パレスチナ・オリーブ 皆川万葉

参院選が終わりましたが、震災のことは被災地の地域課題になってしまったのかという印象でした。地元で望まれていないのに国の方針で作られている巨大防潮堤。流された家のローンの支払い。岩手・福島では延長となっているのに宮城では打ち切られた被災者の医療費免除（理由は「被災者が多すぎるから」）。キロあたり8,000バクレル以下の汚染牧草は焼却するという宮城県の通達。県議会で全会一致で決議されたのに1年経っても始まらない健康調査。これらのことは、全国でも考えてもらいたいことだと思いました。

「私たちなんて被災者には入らない」と言って頑張っているけれど…

仙台市では、主に津波と震災関連死で約千人が亡くなりました。津波と地震で建物の全壊・半壊は約14万棟。電気はたいてい1週間以内に復旧したものの、水道・ガス・交通の復旧には1ヶ月半かかりました（インフラの復旧は沿岸部を除く）。

地震直後、近所で水や食料を分け合ったり避難所の運営を手伝ったり、まずは身近なところから個人個人が動き始めました。市民活動などを通じてネットワークを持っていた人たちはそのつながりの延長で、炊き出しをしたり支援物資を仕分けたり届けたり。4月中旬になってガソリンが手に入り始めると、個人個人でも、

自腹で物資を調達してガソリン代をかけて、沿岸の親族や友人のところを通い始めました。沿岸部の親族を仙台で受け入れた人たちも多数いました。被災者兼支援者、です。仙台の人たちは「私たちなんて被災者に入らない」と言って頑張っていたのです。

でも、私は、これではみんな疲れてしまう、自分たちも震災に傷ついているのだから、ほっと一息つく場所、顔を合わせて話をする場所が必要だと思いました。また、県外からの支援者の人たちは、仙台を通り過ぎて沿岸部に支援に入るけれど、仙台の人とも交流したらお互いに参考になり力にもなるはず、その拠点もある。

ただ、仙台・宮城では、原発事故により放射性物質も降り注ぎ、震災のがれきや復旧工事の粉塵とともにまじ上がっていました。ガソリンが手に入らない中、「内部被曝が怖い〜」と言いながら、自転車で仙台市の沿岸部を走り回って支援していた友人もいました。何を食べるか食べないか、買い物や食事の度に選択を迫られるような生活が始まっていました。安心して食べられて、なんでも話せ、情報交換のできる場所も必要でした。

コミュニティカフェを作ろう。フェアトレードや、ナチュラルな暮らしを求めている中でつながっていた友人・知人たちに声をかけました。

## 2013年夏も熱い夏でした!



8月16日：大文字パーティー  
会員手づくりの食事後、5階屋上から大文字、船形、左大文字を鑑賞しました

8月19～23日：小学生のための夏休みキッズデイズアウト in ガジュマルの樹



宝ヶ池でのお昼ごはん



ロビン・ロイドさんと音楽セッション

## 今後のプログラム

### 京都 YWCA 90 周年お祝い会

今年京都 YWCA は、1923 年の設立から 90 周年を迎えます。多くの先輩や支援者の方々にささえられてきたことに感謝の意を込めて、お祝い会を開催いたします。また、これから予定している新しい事業も紹介し、新たな一歩を踏み出す日としたいと思います。みなさまのご参加を心よりお待ちしております。

日 時：2013 年 9 月 28 日 (土)  
13:30～16:00  
場 所：京都 YWCA ホール  
内 容：記念礼拝、90 年の歩みの振り返り、100 周年に向けての展望(新事業の紹介)、京都 YWCA の Wonderful Women 賞発表他

## ご寄付ありがとうございました。

2013 年 6 月 1 日から 2013 年 7 月 31 日 寄付者一覧 (敬称略、順不同)

### \* 一般寄付

田淵豊子、亀村郁美

### \* 各指定寄付

90 周年みらい募金：

篠田茜、筒井奈都子、別所加恵、今井貴美江、弘中奈都子、神門佐千子、上田理恵子、井上依子

東日本大震災被災者支援：

織田雪江、篠田茜、筒井奈都子、別所加恵、山村茂代、上村愈巳子、北垣景子、井上依子、あじさいバザール来場者

親・子育て支援委員会：上田理恵子

APT：青木信雄、日本キリスト教団多度津教会婦人会、

リリアン テルミ ハタノ、大津健一・恵子、森律子、上村愈巳子、

山内上枝、林律、大西澄子、森田園子、永井靖二、上島良彦、後藤アユ子、孫美幸、安藤いづみ、井上陽子、上原有美、金児明子、嶋川まさ子、坂和優、井上依子、匿名

国際委員会：小寺敬子、西森頼子、筒井奈都子 (交流グループへ)、井上依子、国際委員会有志

平和委員会：平和委員会有志、憲法ワークショップ参加者有志

スウォン YWCA 交流プログラム：弘中奈都子、木戸さやか、坪野えり子、井上依子

活動グループ連絡会：ビーンズ、ミモザ

スリフトショップ委員会：スリフトショップ委員会有志

賛助員：近藤純弘、下村喜久子、佐野千枝子

## 7月・8月／理事会報告

- ブクラ：「ストップ!ソーダストリーム」キャンペーンに賛同
- 親・子育て支援委員会：在京避難者親子との交流会を企画中
- プラットフォーム30：9/14 (土) 14:00～16:00 「ワークライフバランス～職場でのパワハラ・セクハラどう乗り切る?!～」
- 福島キッズのための夏の保養プログラム<8/2～8/9>
- スリフトショップ：福島県新地町仮設まごころサポートグッズ作成のため着物寄贈。
- 2012年度決算報告
- 90周年記念誌：9/28お祝い会までに作成予定
- 沖縄・辺野古へのバナー送付呼びかけ⇒館内で呼びかけてバナーをつくる。
- 会館部の今後の空室利用 (来年3月まで)：1泊2,000円 (3階) 1,300円 (4/5階) × 宿泊数、または通常家賃で借りてもらふ。

「京都YWCA新事業のための改修募金・会債発行」を9月より開始します。皆様のご協力を心よりお願いいたします。

◎募金目標額：1,000万円

◎会債 (発行) 目標額：1,500万円 (1口10万円、償還期間5年または10年)

2013年9月より募集開始 (募集期間：2013年9月から2014年9月)

据置期間 5年 (2014年9月1日～2019年8月31日) または  
10年 (2014年9月1日～2024年8月31日)

KYOTO YWCA No.516

2013 年 9 月号 (9 月 1 日発行)

発行人 上村愈巳子

発行所 一般財団法人京都 YWCA

京都市上京区室町通出水上ル

電話 (075) 431-0351 FAX (075) 431-0352

e-mail office@kyoto.ywca.or.jp

URL http://kyoto.ywca.or.jp

郵便振替 01080-9-1566

口座名義 (一財) 京都 YWCA

定 価 50 円